

## 保育所・認定こども園における食を通じた保育・教育ニーズと、 そのための保育者の専門性に関する研究

研究代表者	會退 友美	(東京家政学院大学・助教)
共同研究者	倉田 新	(東京都市大学・准教授)
	酒井 治子	(東京家政学院大学・教授)、
	坂崎 隆浩	(こども園ひがしどおり・理事長)、
	林 薫	(白梅学園大学・准教授)
	淀川 裕美	(東京大学大学院・特任講師)
	池谷 真梨子	(和洋女子大学・助教)
研究協力者：	久保 麻季	(東京家政学院大学・修士2年)

### 研究の概要

本研究では、保育所・認定こども園における施設長、主任、保育士、栄養士を対象に、子どもの食の経験が豊かになるためにはどのような力が必要であるか、グループインタビューを行い、KJ法を用いてその概念を抽出し、整理を行った。グループは、5～8人で構成し、合計14グループで実施した。対象者は、施設長12人、主任13人、保育士27人、栄養士44人の合計96人であった。抽出された重要アイテムは2,768件であり、施設長のべ464件、主任のべ202件、保育士のべ1,009件、栄養士のべ1,093件であった。概念を整理した結果、施設長、主任、保育士、栄養士それぞれの力の類似性や相違性が認められた。

施設長、主任は園を運営するリーダーとしての役割があることが関係図から明らかとなった。施設長では、職員の課題を把握し、職員育成や仕組みづくりに対応していること、主任では、職員を教育しているなど具体的な役割の必要性に気づく力が必要であることが示された。また、保育を展開するための保育に関する知識や、連携があることも示すことができた。施設長や主任では、連携するための仕組みづくりを行っていることが特徴的であった。保育士、栄養士は現場での現状や食への想いが抽出された。保育士では、保育や子どもとの関わりについて多くの発言があった。栄養士では、子どものみならず調理についての発言も多かった。これらのことから、保育士、栄養士それぞれの専門性を抽出することができたと考えられる。また、互いの専門性を保育で展開し、連携している姿もみられた。が、栄養士からは保育士と「連携が難しいと感じている」と発言もあり、連携の課題もみられた。今後、保育士、栄養士の連携に関して検討していく必要性も示唆された。以上の特徴が整理され、本研究では、各職種に対する研修を提案した。

キーワード：保育所、認定こども園、保育者、専門性

### I. はじめに

保育所・認定こども園では、子どもの食の経験を豊かにするため、施設長や主任、保育士、保育教諭、栄養士など様々な専門職種が関わり、食育が展開されている。『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～<sup>1)</sup>』には、「「食育」の実施に当たっては、家庭や地域社会と連携を図り、保護者の協力のもと、保育士、調理員、栄養士、看護師などの全職員がその有する専門性を活かしながら、共に進めることが重要である」と記載されている。このように、子どもの育ちを中心に、全職員が連携し、専門職としてのスキル等を活かしながら食育を行っていく必要性がある。以下、本研究では、各

専門職種が子どもの食の経験を豊かにし、子どもの食の営みが健やかに育まれるように援助するために持つべき力を「子どもの食を支える力」とする。

さらに、給食に関しても同様に、「児童福祉施設における食事の提供に関する援助及び指導について（平成27年3月）<sup>2)</sup>」において、「給食の適正な運営のため、定期的に施設長を含む関係職員による情報の共有を図るとともに、常に施設全体で、食事計画・評価を通して給食運営の改善に努めるよう、援助及び指導を行うこと。」と述べられている。つまり、食育のみならず給食においても、施設全体で子どもの食を支えていくことが必要であるとされている。

施設全体で子どもの食を支えるためには、職員の資質

向上も重要である。平成30年4月施行の保育所保育指針<sup>3)</sup>には、職員の資質向上について記載されており、「各職員は、自己評価に基づく課題等を踏まえ、保育所内外の研修等を通じて、保育士・看護師・栄養士等、それぞれの職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めなければならない。」とある。前述したように、子どもの食を支えるためには様々な職種の専門性を活かした働きとそれぞれの連携が不可欠である。このことを踏まえ、各専門職種の研修も職種の特徴を踏まえた内容が求められる。

## II. 目的

本研究の目的は、保育所や認定こども園において子どもに関わる全ての専門職種（以下、保育者）の「子どもの食を支える力」の特徴を抽出することとした。さらに、本結果を踏まえて、施設長や主任、保育士、栄養士などの専門職種の特徴を踏まえた研修提案にもつなげたい。

## III. 方法

### 1) 対象者と手続き

本研究では、施設長、主任、保育士、栄養士、調理員、看護師を対象にグループインタビューを行い、職種ごとに「子どもの食を支える力」の概念を抽出した。参加者の募集は、平成29年5月に日本保育協会、東京都民間保育園協会を通じて行った。前者は刊行物に募集要項を記載して募り、後者はメールで配信をした。募集の際には、日本保育協会の研究の一環であることを明記し、倫理的配慮事項も記載した。第一回目は、平成29年6月3日（土）に主に施設長、主任を対象に募集を行い、第二回目は、平成29年7月15日（土）に保育士、保育教諭、栄養士、調理員、看護師を対象に募集を行った。

### 2) グループインタビューの方法

実施場所は、東京家政学院大学の各教室とし、1グループ5～8人に対し、司会者1人、観察者1～2人でグループインタビューを実施した。インタビューの時間は13時半～15時の約90分であり、ICレコーダーにて録音した。インタビュー前には、研究の主旨を説明し、同意を得た者から署名を得た。また、同意を得た者は、経験年数や所属施設に関する属性について質問紙に回答した。

インタビューの司会者1人は、できるだけメンバーの自発的な発言が多く引き出せるように、話しやすい環境づくりに配慮し、参加者に話を振るよう心掛けた。また、インタビューは事前に半構造的に作成したインタビューガイドに沿って進めた<sup>4)</sup>。インタビューの内容は、①子ども達は各園でどのような食の経験をしていますか？②その経験を通して、どのような子どもを育みたいとお考えですか？③子ども達がそのような食の経験を積むため

にどんな保育者の専門性があればよいでしょうか？の3つとし、順不同に自由に発言をしてもらった。

### 3) 分析方法

インタビュー後、ICレコーダーから逐語録を作成し、管理栄養士2人により、重要アイテムの抽出を行った。それぞれが抽出した項目が一致していない場合、話し合いによって抽出項目を決定した。その際、他の職種が発言しても該当すれば抽出した。例として、施設長から栄養士の「子どもの食を支える力」についての発言があれば、栄養士のカテゴリーに分類した。抽出したアイテムは、KJ法によりカテゴリーを作成し、カテゴリーの類似性や相違性を確認し、小カテゴリーから特大カテゴリーまで重要カテゴリーを作成した<sup>5)</sup>。その後、得られたカテゴリーを参加者の発言をもとに概念図を作成した。作成したカテゴリーと概念図は、保育の専門家4人と管理栄養士4人によって確認を行い、話し合いを行った。

なお、以下に示すカテゴリーは、特大カテゴリーを《 》の数字、大カテゴリーを【 】, 中カテゴリーを[ ], 小カテゴリーを『 』を表す。

## IV. 結果

### 1) 対象者の属性（表1）

第一回の参加者は、6グループ（5人～7人）の合計38人であった。参加者は、施設長12人、副園長1人、主任11人、保育士10人、栄養士3人、自治体職員1人であった。第二回では、8グループ（6人～8人）の合計59人が参加した。職種は、主任1人、保育士14人、保育教諭1人、栄養士35人、調理員6人、看護師2人であった。施設形態は、認定こども園や保育所などであった。経験年数は、施設長は10～20年未満が多く、30年以上の者もいた。主任は10年～30年未満の者が多かった。保育士は1～5年未満の者が最も多く、栄養士は1年未満の者が多かった。分析にあたり、副園長は1人のみであったため、主任のグループに追加した。同じように保育教諭1人、看護師も2人であったため、保育士のグループに、調理員も6人であったため、栄養士グループに追加し分析した。自治体職員は1人のみであったが発言がなかったため、分析対象としていない。以上のことから、2日間の研修の参加人数は合わせて96人を施設長12人、主任13人、保育士27人、栄養士44人に分けて検討を行った。

抽出された重要アイテムは2,768件であった。各職種では、施設長のべ464件、主任のべ202件、保育士のべ1,009件、栄養士のべ1,093件であった。

### 2) グループインタビューの発言数と内容（表2）

施設長、主任、保育士、栄養士の職種別の参加人数と発言件数を表2に示す。施設長、主任、保育士、栄養士、共通の特大カテゴリーとして、《めざす子ども像》、《保

表1 参加者の保育または役職経験年数

	施設長		主任		保育士		栄養士 <sup>§</sup>	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
年数	12	(100.0)	13	(100.0)	27	(100.0)	44	(100.0)
1年未満	1	(8.3)	0	(0.0)	2	(7.4)	4	(9.1)
1～5年未満	0	(0.0)	0	(0.0)	8	(29.6)	13	(29.5)
5～10年未満	1	(8.3)	3	(23.1)	5	(18.5)	8	(18.2)
10～15年未満	2	(16.7)	2	(15.4)	1	(3.7)	3	(6.8)
15～20年未満	2	(16.7)	1	(7.7)	3	(11.1)	1	(2.3)
20～30年未満	3	(25.0)	4	(30.8)	4	(14.8)	0	(0.0)
30年以上	3	(25.0)	2	(15.4)	4	(14.8)	0	(0.0)
記入なし	0	(0.0)	1	(7.7)	0	(0.0)	15	(34.1)

※主任には副園長1人、保育士には保育教諭1人、看護師2人、栄養士には調理員6人を含む。

§ 栄養士は、保育経験年数ではなく、現在の役職年数を示す。

表2 職種別参加人数と特大カテゴリーの発言数

職種 参加人数（人）	施設長 12		主任 13		保育士 27		栄養士 44	
発言数（件）	464	(100)	202	(100)	1,009	(100)	1,093	(100)
《めざす子ども像》	3	(0.6)	3	(0.6)	15	(1.5)	12	(1.1)
《保育の方針・目標》	78	(16.8)	24	(11.9)	66	(6.5)	53	(4.8)
《保育実践》	196	(42.2)	83	(41.1)	577	(57.2)	595	(54.4)
《保育に関する知識》	6	(1.3)	2	(1.0)	54	(5.4)	60	(5.5)
《連携》	102	(22.0)	40	(19.8)	202	(20.0)	196	(17.9)
《職員の育成》	49	(10.6)	26	(12.9)	4	(0.4)	4	(0.4)
《個人の資質》	30	(6.5)	23	(11.4)	69	(6.8)	26	(0.4)
《保育と調理室をつなげる》	0	(0.0)	1	(0.5)	22	(2.2)	24	(2.2)
《調理室》	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	123	(11.3)

発言数 件，%

育の方針・目標》、《保育実践》、《保育に関する知識》、《連携》、《職員の育成》、《個人の資質》の7つに分類できた。主任、保育士のみで《保育と調理室をつなげる》が抽出でき、さらに栄養士のみ《調理室》が抽出された。それぞれの特大カテゴリーに類似した重要アイテムを、大カテゴリー、中カテゴリー、小カテゴリーに分類した。

全職種ともに《保育実践》と《連携》について多く、施設長や主任は、《保育の方針・目標》や《職員の育成》についての発言数が多かった。保育士や栄養士は、施設長や主任に比べ《保育実践》が多く抽出できた。栄養士のみで抽出された《調理室》も栄養士からは発言頻度が高かった。

以下、各職種別に特徴的であった特大カテゴリーを抜粋して述べる。

### 3) 施設長の特徴（表3、図1）

表3に施設長が回答した発話を類似性と相違性によって分類した「子どもの食を支える力」のカテゴリーの表

を示す。施設長の特徴的であった発話は、園の方針を定め、仕組みづくりをしていること、職員の育成および職員の課題の把握をしていること、職員の想いを実現することであった。

施設長の《保育の方針・目標》の方針に関する発言は、他の職種に比べて多く、園全体の保育の方向性を定める力が必要であることが示された（78件（16.8%））。具体的には、『野菜づくり』や『食農』などの〔食育活動に方針〕や、『和食』にしていることや『子どもが主体性を持って食べる』などの〔給食の方針〕があげられた。

《保育実践》では、様々な仕組みづくりを行う力が示された。例えば、お米を作る、解体ショーをしたりするための〔食育活動の仕組みづくり〕や『ランチルーム』など〔給食の仕組みづくり〕があげられた。栄養士が職員や子どもと関わりが持てるように、〔栄養士が保育へ参加する仕組みづくり〕を積極的に行う施設長もみられた。このことから、栄養士が保育士や子どもと関わりを

持つことで、よりよい連携が生まれることを把握しており、関わりが持っていない課題を解消するために仕組みを作る力が必要であることがあげられた。その他、【環境づくり】では、園庭や園舎など施設づくりを行う力が多く示された。【保護者支援】においても、『懇談会』や『保護者会』など保護者が園にかかわれる仕組みづくりについて多く抽出できた。【地域との関わり】では、つながりを持つことでそのつながりを食育活動に活かせる力が求められていることがわかった。

《職員育成》では、施設長のみで、【職員の課題の把握】という力が必要であることが示された。実際に、「食べさせなければいけないのは、みんなあるみたいで、楽しい食事の場ではない、みんな目が真剣っていうか保育士さんたちがもうほんとに真剣で」と発言があった。このような保育の中でみられた職員の課題に対し、職員の育成や連携の仕組みづくりを行い、保育の改善につなげようとする施設長の姿がみられた。改善策としては、園内研修や外部研修など「学ぶ機会を設ける」などがあり、課題に対する研修内容を構築することができる力が抽出された。このカテゴリーでは、特に【保育士の育成】に関する発言が多かった（職員育成49件の内、26件）。その中では、「めざす保育士像を持っている」ことで、それに向けて、施設長は保育士が成長するための援助を行える力（「めざす保育士像に向けた援助をしている」）が必要であることが示された。施設長は保育士や栄養士と比べると、子どもに関する発言は少なかったものの、職員に関する発言は多かった。施設長として、子どもへの保育も重要ではあるが、特に子どもに最も関わりの近い職員を育てるための力が重要であることが改めて明らかとなった。

《個人の資質》では、特に保育士や栄養士がやりたいことをやらせてくれるといった「職員の想いの実現できる」ための力があることが、他の職種にはなく、施設長

の力として特徴的であった。

図1では、施設長が回答した「子どもの食を支える力」について概念図を表した。施設長が回答しためざす子ども像は、子どもが給食の時間を楽しいと思っていきたいことや、食を通した活動で食を身近に感じてほしいなどの想いを持つという力が抽出された。その想いを実現させるために園の方針づくりや食育活動、給食の仕組みづくりを行う力が必要であることが示された。また、保育を展開するために職員の育成にも注力しており、連携するための仕組みづくりをする力も必要であることが明らかとなった。また、施設長が現場での職員の課題を見出して、それに対応を取っていたため、職員を育成する力と連携するための仕組みづくりに矢印を向けた。例えば、アレルギーへの対応のため、給食の時間が緊張感でいっぱいになり、職員も子どもも楽しい雰囲気ではなくなってしまうため、アレルギーフリーの献立にするといったことである。さらに、保育を展開するために、保育・食育の方法に対する想いがあること、保育に関する知識や、連携する力があることも示された。施設長では、連携するための仕組みづくりを行っていたことが特徴的であった。

#### 4) 主任の特徴 (表4、図2)

主任が回答した発話を類似性と相違性によって分類したカテゴリーを表4に示す。

主任の特徴的であった発話は、施設長と同様な発言と保育士と同様な発言がみられたこと、職員の育成において職員を教育していることであった。

まず、《保育実践》において施設長に似た発言と保育士のような発言がみられた。《保育実践》を構成する一つである【環境づくり】では、施設長同様、【野菜づくり】や【園舎づくり】をする力が抽出された。一方で、『食に関するおもちゃを置く』ことや『クラス交流を見

表3 施設長が回答した「子どもの食を支える力」

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
めざす子ども像(3)	めざす子ども像(3)	子どもたちの食への想いがある(3)	子どもたちの食への想いがある(3)
保育の方針・目標(78)	保育の方針・目標(78)	保育の目標がある(23)	保育の目標がある(2)
			園の方針を持っている(6)
			卒園後の子どもたちを考える(2)
			子どもを主体にした保育をしている(5)
		食育活動の方針がある(22)	保育の流れをつくっている(8)
			食育活動への想いがある(5)
			食育活動への考えがある(3)
			食育活動に関する方針がある(9)
		給食の方針(食べる場面)がある(18)	野菜づくりをしている(2)
			食農という方針がある(3)
			給食(食べる場面)の想いがある(2)
			給食(食べる場面)の考えがある(3)
給食(食べる場面)の目標がある(4)			
子どもが主体性を持って食べる(4)			
感謝の気持ちを育む(1)			
食べられた経験を大切にしている(1)			
完食する(1)			
咀嚼がうまくできるようにする(1)			
共食することを大事にしている(1)			

表3 施設長が回答した「子どもの食を支える力」（続き）

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー		
保育の方針・目標 (78)	保育の方針・目標 (78)	給食の方針（提供場面）がある (15)	和食中心にしている (4)		
			献立に力を入れている (3)		
			栄養管理をしている (1)		
			おいしい給食を目標にしている (2)		
			間食させない (1)		
			給食の提供方法のルールがある (2)		
保育実践 (196)	保育の計画 (3)	保育の年間計画を立てている (3)	保育の年間計画がある (3)		
			食育活動の仕組みづくり (2)		
	保育の仕組みづくり (94)	食育活動の仕組みづくり (16)	野菜と関わる (2)		
			お米と関わる (4)		
			魚と関わる (2)		
			委員をつくる (1)		
			園で畑を所有する (5)		
			給食の仕組みづくり (1)		
		給食の仕組みづくり (72)	パイキングにしている (3)		
			配膳の仕組みをつくった (2)		
			無理なく食べるようにしている (1)		
			ルールをつくった (1)		
			給食係をつくった (1)		
			正座で食べる (1)		
			ランチルームがある (14)		
			献立を管理している (3)		
			食材の大きさを把握している (1)		
			食べる様子を見に行く (2)		
			チェックリストをつくる (1)		
			仕入れ先の選定している (3)		
	食へのこだわりを持っている (7)				
	委託との契約ができる (3)				
	委託と連携している (1)				
	子どもと委託をつなげる (1)				
	子どもと一緒に食べる (14)				
	保育士が検食をしている (4)				
	アレルギーフリーの方針がある (4)				
	アレルギーフリーの献立にしている (1)				
	アレルギーの対応をしている (2)				
	アレルギーの危機管理ができる (1)				
	調理員の人員配置ができる (1)				
	環境づくり (42)	栄養士が保育へ参加する仕組みづくり (6)	栄養士が保育へ参加する仕組みづくり (6)		
			園内の環境づくり (2)		
		園内環境づくり (2)	園内の環境づくり (1)		
			花を育てている (1)		
			野菜づくり (4)	野菜づくり (4)	
				園庭づくり (20)	果物の木を植えた (8)
					田んぼをつくった (5)
					かまどをつくった (3)
		畑をつくった (3)			
		園舎づくり (16)	井戸を掘った (1)		
			栄養士が子どもの食べている様子を見れる園舎にした (15)		
子どもとの関わり (8)		食育活動を通して (2)	暖炉をつくった (1)		
	遊びを通して教育を行う (1)				
	給食を通して (6)	子どもの変化に気づく (1)			
		職員が子どもと一緒に食べる (4)			
保護者支援 (28)	保護者と関わる仕組みづくり (28)	子どもの食べる様子を見る (1)			
		友だちの重要性を理解している (1)			
		家庭も巻き込んだ園での活動 (4)			
		保育参観をひらく (4)			
		保護者会をひらく (2)			
		イベントをひらく (2)			
		懇談会をひらく (9)			
		栄養士と話す機会を設ける (2)			
		保護者からの質問を回答する (2)			
		家庭と食事の連携をとっている (1)			
普段から保護者と交流している (2)					
地域との関わり (21)	地域とのかかわりがある (17)	地域特性を把握している (4)			
		食に関わる地域とつながりがある (2)			
		大工とのつながりがある (1)			
		地域とのかかわりがある (6)			
		畑を借りる (4)			
		J A との協力している (3)			
地域と給食をつなぐ (1)					

表3 施設長が回答した「子どもの食を支える力」(続き)

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	
保育に関する知識 (6)	食に関する知識 (6)	食具がわかる (1)	食具がわかる (1)	
		子どもの口腔内がわかる (4)	子どもの口腔内がわかる (4)	
		衛生面がわかる (1)	衛生面がわかる (1)	
連携 (102)	施設長と職員の方針の共有 (16)	方針の共有 (16)	子どもに関する方針がある (11) 職員に関する方針がある (5)	
	職員間の共有 (3)	職員間で理念共有する (3)	職員間で理念を共有する (3)	
	職員間のコミュニケーション (17)	職員間のコミュニケーション (17)	話し合う (9)	話し合う (9)
			要望・提案をする (4)	要望・提案をする (4)
			相談にのる (4)	相談にのる (4)
			雰囲気づくり (13)	雰囲気づくり (13)
	職員の仕組みづくり (56)	場づくり (34)	職員が情報共有できる仕組みづくり (9)	職員が情報共有できる仕組みづくり (9)
			職員間で話す仕組みづくり (9)	職員間で話す仕組みづくり (9)
			保育士と栄養士が話す仕組みづくり (3)	保育士と栄養士が話す仕組みづくり (3)
	各職種への理解 (10)	各職種への理解 (10)	給食に関する会議を開く (15)	給食に関する会議を開く (15)
普段から職員間で話す仕組みづくり (7)			普段から職員間で話す仕組みづくり (7)	
人間関係の把握している (2)			人間関係の把握している (2)	
各職種への理解 (10)			各職種への理解 (10)	
職員育成 (49)	職員の課題の把握 (5)	職員の課題の把握 (5)	職員の課題の把握 (5)	
	学ぶ機会を設ける (8)	学ぶ機会を設ける (8)	園内研修をひらく (4) 職員を研修へ行かせる (2)	
	職員へのサポート (10)	職員へのサポート (10)	職員へのサポート (10)	
	保育士の育成 (26)	めざす保育士像を持っている (10)	めざす保育士像を持っている (10)	保育士につけてほしい力がある (10)
		めざす保育士像に向けた援助をしている (12)	めざす保育士像に向けた援助をしている (12)	めざす保育士像に向けた援助をしている (10) 保育士育成のための仕組みづくり (2)
		保育士の姿把握している (4)	保育士の姿把握している (4)	保育士の姿把握している (4)
	個人の資質 (30)	決断力 (5)	決断力 (5)	決断力がある (5)
知識 (9)		国の基準の把握している (3)	国の基準の把握している (3)	
		自身が学ぶ (6)	研修へ参加する (3) 他園から学ぶ (3)	
スキル (11)		保育スキルを持っている (3)	保育スキルを持っている (3)	
		職員の想いの実現できる (8)	職員の想いの実現できる (8)	
態度 (5)		自身が楽しむ (3)	自身が楽しむ (3)	
		自身がモデルになる (1)	自身がモデルになる (1)	
		職員の意見を受け取る (1)	職員の意見を受け取る (1)	

※全464件

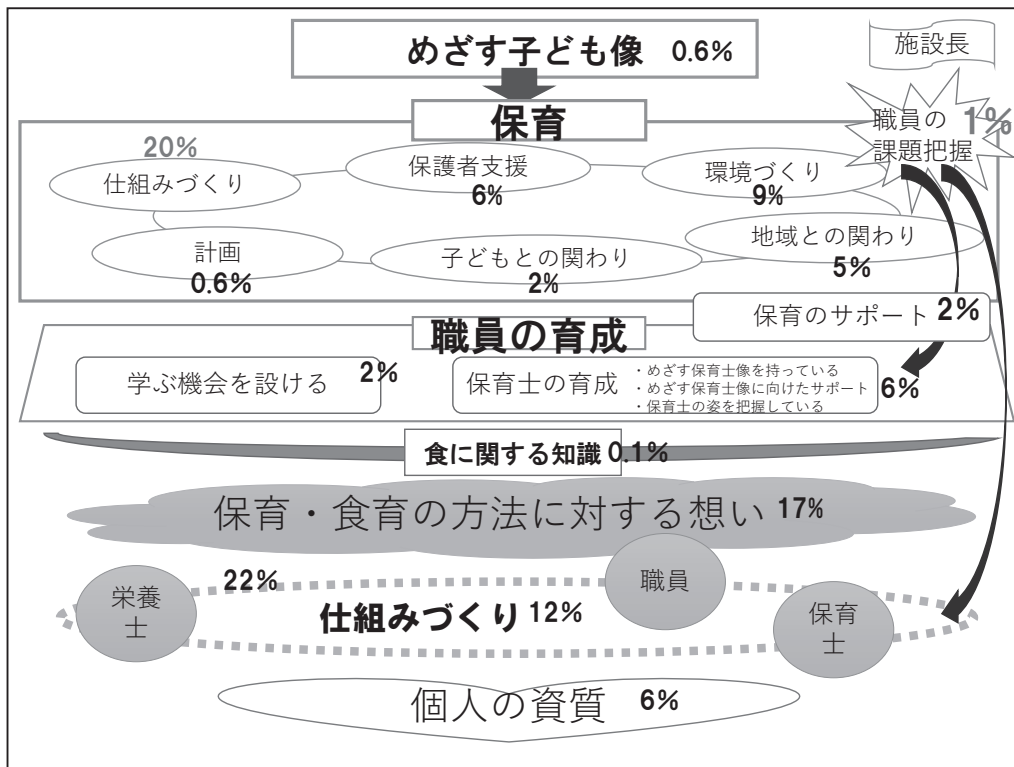


図1 施設長の「子どもの食を支える力」概念図

※図中の数値は全体の項目数に対する各カテゴリーの項目数の割合を示す。

せる』など、保育士のように保育の現場での役割を果たす力もあった。前述したように、主任は、園を運営するための施設長と同様な発言と、保育士と同様に子どもに直接接する保育士としての発言も多くみられた。これらのことから、主任は保育士に近い存在で現場に入りながら、施設長と同様な想いや考えを持ち、リーダーのような存在でもあるため、両方の力が必要であることが改めて明らかとなった。

《職員の育成》では、施設長よりも具体的にまた日常的に職員の教育を行う力が求められるのは主任であることが示された。施設長が職員の課題を把握して仕組みづくり等を行う中、日常的に主任が保育士や栄養士を教育する力が必要であることがわかった。【職員へのサポート】では、職員の相談に乗ったり、後輩をフォローした

りと職員への情緒的なサポートをする力が抽出された。

図2では、主任が回答した「子どもの食を支える力」について概念図を示した。主任のめざす子ども像では、子どもたちに意欲的に食べてほしいと思うことや子どもの食の経験を大事にしたいと思っていることであった。また、施設長、保育士の両方の側面から食育活動や給食の場面において様々な仕組みづくりをしていた。施設長と同様に、職員を育てる力も大いに必要であった。図中には、保育を展開する保育士や栄養士に向けて教育を行っていたため、矢印で示した。施設長と同様、保育を展開するために、保育・食育の方法への想いがあること、保育に関する知識や、連携をとる力が必要であることも示した。

表4 主任が回答した「子どもの食を支える力」

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	
めざす子ども像(3)	めざす子ども像(3)	子どもたちの食への想いがある(3)	子どもたちの食への想いがある(3)	
保育の方針・目標(24)	保育の方針・目標(24)	保育の目標がある(13)	保育の目標がある(9) 保育の流れをつくっている(3) 卒園後の子どもたちを考える(1)	
		給食の方針(食べる場面)がある(10)	給食の方針(食べる場面)の考えがある(3) 給食の方針(食べる場面)の方針がある(7)	
		給食の方針(提供場面)がある(1)	給食の方針(提供場面)がある(1)	
保育実践(83)	保育の計画(3)	保育の計画(3)	子どもの活動に関する計画を立てている(2) 子どもの嚥下に合わせた計画を立てている(1)	
	保育の仕組みづくり(26)	食育活動の仕組みづくり(4)	日本の伝統を取り入れる(1) 世界の料理を取り入れる(2) 収穫体験を取り入れる(1)	
		給食の仕組みづくり(18)	ランチルームがある(3)	ランチルームがある(3) 提供時間を決めている(3) 子どもと一緒に食べる(1) テーブルセッティングをしている(1) リクエストメニューを取り入れる(1)
			給食をたくさん作ってもらう(1)	給食をたくさん作ってもらう(1) 食事を決めている(1) アレルギーフリーの方針がある(2) アレルギーを一部除去している(1) アレルギーフリーにすることで職員の負担が減ることを把握している(3) 宗教食に対応している(1)
			栄養士が保育へ参加する仕組みづくり(4)	栄養士が保育へ参加する仕組みづくり(4)
			環境づくり(6)	園内の環境づくり(3)
	野菜づくり(2)			野菜づくり(2)
	園舎づくり(1)	園舎づくり(1)		
	子どもの関わり(21)	給食を通して(21)	子どもの食の現状把握している(5) 子どもと職員と一緒に食べる(2) 子どもが自分の適量を食べるための対応をしている(4) 子どもの食嗜好がわかる(1) 子どもの食べるときの反応を把握している(1) 子どもの変化に気づく(4) アレルギー食の対応をしている(4)	
	保護者支援(22)	保護者と関わる仕組みづくり(15)	家庭も巻き込んだ園での活動(3) 保護者会をひらく(2) 園での活動内容の掲示する(4) 食事サンプルの展示する(3) 園の方針を保護者へ発信する(1) 普段から保護者と交流している(2)	
家庭と食事の連携をとっている(7)		家庭と食事の連携をとっている(3) 家庭での子どもの食事の把握している(4)		
地域との関わり(5)	地域特性を把握している(2)	地域特性を把握している(2)		
	地域とのかかわりがある(3)	地域とのかかわりがある(3) 収穫体験をさせてもらう(1)		
保育と調理室をつなげる(1)	他者をつなげる(1)	他者をつなげる(1)	給食室と子どもをつなげる(1)	

表4 主任が回答した「子どもの食を支える力」(続き)

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
保育に関する知識 (2)	食に関する知識 (2)	食に関する知識 (2)	離乳食の形態を判断できる (1)
			野菜に関する知識やスキルがある (1)
連携 (40)	職員間の共有 (9)	方針の共有 (9)	子どもに関する方針がある (6)
	職員間のコミュニケーション (10)	職員間のコミュニケーション (10)	職員に関する方針がある (3)
	職員間で連携する (4)	職員間で連携する (4)	話し合う (9)
	職員の仕組みづくり (13)	場づくり (10)	話し合う (9)
			意見・要望をいう (1)
			職員間で話し合う仕組みづくり (3)
	各職種への理解 (4)	各職種への理解 (4)	保育士と栄養士が話し合う仕組みづくり (3)
職員育成 (26)	学ぶ機会を設ける (6)	学ぶ機会を設ける (6)	給食に関する会議を開く (3)
	職員への教育 (10)	職員へ教育している (10)	普段から職員間で話す仕組みづくり (1)
職員へのサポート (10)	各職種への理解 (3)		
個人の資質 (23)	決断力 (3)	決断力 (3)	人間関係を把握している (1)
	知識 (10)	国の基準理解している (3)	学ぶ機会を設ける (2)
		自身が学ぶ (7)	園内研修をひらく (2)
	スキル (7)	保育スキルを持っている (4)	職員を研修へ行かせる (2)
	態度 (3)	職員の想いの実現できる (3)	職員へ教育している (8)
	食が好きな (1)	食が好きな (1)	若い先生へ教育する (2)
			後輩保育士への想いがある (2)
			後輩保育士へフォローする (2)
			後輩保育士が考えられる質問をする (2)
			職員の相談にのる (3)
			新人職員の面倒をみる (1)

※全202件

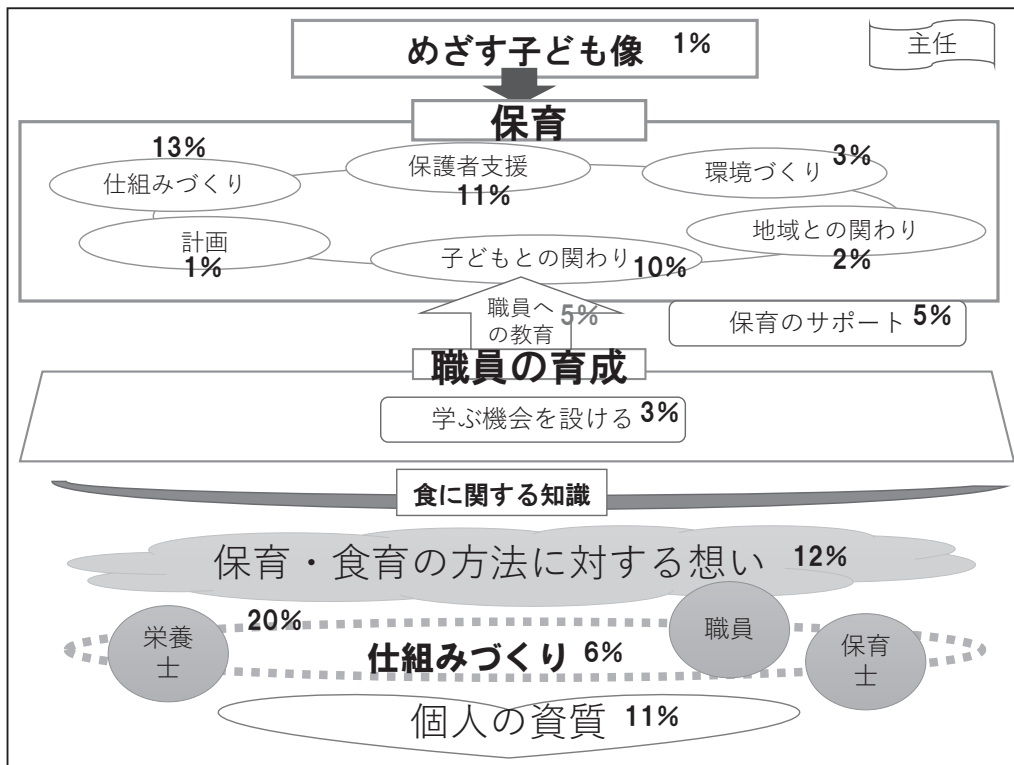


図2 主任の「子どもの食を支える力」概念図

※図中の数値は全体の項目数に対する各カテゴリーの項目数の割合を示す。



5) 保育士の特徴（表5、図3）

保育士が回答した発言を類似性と相違性によって分類したカテゴリーを表5に示す。

保育士の特徴的であった発言は、食事を楽しむ子どもをめざす子ども像に持つ力が多く抽出されたこと、子どもと関わる力が最も必要であったこと、保護者支援において保護者と密にコミュニケーションをとる力が必要であることであった。

まず、保育士の《めざす子ども像》では、「楽しんで食べてほしいと思っている」など食事を楽しむ姿についての発言が最も多かった。保育士は、食事を楽しむ子どもへの想いがあることが明らかとなった。他にも、子ども自身で食べることや食に興味関心を持つことがあげられた。

《保育実践》を構成する一つである【子どもとの関わり】に関する発言が多く（385件、38.2%）、保育士の中でも最も必要な力であることがわかった。【子どもとの関わり】は「保育活動を通して」や「子どもを理解している」、[給食を通して]などに分類された。[保育活動を通して]では、保育計画に沿った保育、年間を通した保育、年齢に合った保育などが抽出され、保育士はそれぞれの子どもに合わせた保育を展開させる力が求められていた。また、「子どもを理解している」では、子どもの気持ちがわかる、子どもと一緒に学ぶことなどが抽出された。さらに、『保育と食をつなげている』は他職種

になく、保育士のみで抽出された力であった。これは、お絵描きや絵本など保育の中に食に関するものを取り入れるなどで構成されていた。[給食を通して]については、子どもと『一緒に食べる』ことが一番多く抽出された。次いで、保育士のみで『保育者が食べるモデルになる』力が抽出された。他にも『食嗜好がわかる』、『咀嚼できない子がわかる』、『食べる量を把握している』といった子どもの把握をし、それぞれの子どもに合った『食事の援助を工夫している』をする力が示された。

【保護者支援】では、保育士と栄養士のみで「保護者との関わり」が抽出された。特にこのカテゴリーは、栄養士に比べて保育士で多くの発言があった。『保護者を理解している』や『保護者の変化に気づく』など保護者の気持ちに寄り添う力の必要性が示された。他にも、保護者の不安や悩みを聞いてアドバイスする力も示された。また、継続的なフォローをしている保育士もみられ、食の面において、保護者と日ごろから密なコミュニケーションをとる力もみられた。

図3では、保育士の「子どもの食を支える力」について概念図を示した。保育士のめざす子ども像では食事を楽しむ子どもが多くあげられ、実際、給食の場面で、子どもが食事を楽しむために一緒に食べたり、雰囲気づくりをする力がみられた。また、栄養士と保護者をつなげる力も抽出できたため、調理と保育の間に保護者支援が位置することが特徴的であった。

表5 保育士が回答した「子どもの食を支える力」

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	小小カテゴリー		
めざす子ども像 (15)	めざす子ども像 (15)	子どもたちの食への想いがある (15)	食事を楽しむ子ども (7)			
			自ら食べる子ども (3)			
			いろいろなものを食べる子ども (1)			
			興味や関心を持つ子ども (2)			
			一緒に食べたい人がいる子ども (1)			
			感謝の気持ちがある子ども (1)			
保育の方針・目標 (66)	保育の方針・目標 (66)	保育の目標がある (21)	卒園後の子どもたちを考える (7)			
			子どもを主体にした保育をしている (14)	子どもを主体にした保育をしている (6) 子どもたちが野菜を決める (8)		
		食育の方針がある (25)	食育活動への想いがある (11)			
			食育活動への方針がある (14)			
		給食の方針（食べる場面）がある (20)	給食の方針（食べる場面）の想いがある (4)			
			給食の方針（食べる場面）の考えがある (4)			
			給食の方針（食べる場面）の方針がある (12)	子どもと配膳量を決める (2)		
				においを大切にしている (2)		
				楽しい食事になっている (7)		
				味覚を大切にしている (1)		
保育実践 (577)	保育の計画 (14)	保育計画を立てている (3)	保育計画を立てている (3)			
			食育計画を立てている (4)			
		食育計画を立てている (11)	テーマを設定をしている (2)			
			年間計画を立てている (2)			
	保育の仕組みづくり (3)	食育の仕組みづくり (3)	調理計画を立てている (3)			
			食育の仕組みづくり (3)			
	環境づくり (33)	園内の環境づくり (6)	環境設定を含めて考えている (2)			
			炊飯ジャーを置いている (1)			
			クラス交流を見せている (1)			
			食べる量がわかるようにしている (2)			
		野菜づくり (22)	野菜づくり (12)	野菜づくり (12)		
				プランターで育てている (7)		
			園庭で育てている (1)	園庭で育てている (1)		
				畑を借りて育てている (2)		
				園庭づくり (2)	園庭づくり (2)	
					田んぼづくり (3)	田んぼづくり (3)

表5 保育士が回答した「子どもの食を支える力」(続き)

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	小小カテゴリー
保育実践 (577)	子どもとの関わり (385)	保育活動を通して (39)	計画に沿った保育をしている (7)	
			年間を通した保育がある (2)	
			年齢に合った保育をしている (16)	年齢に合った保育をしている (7)
				0歳児に合った保育をしている (3)
				1歳児に合った保育をしている (2)
				2歳児に合った保育をしている (1)
				5歳児に合った保育をしている (1)
			2~5歳児に合った保育をしている (2)	
			お腹をすかせる保育をしている (1)	
			保育と食をつなげている (13)	保育と食をつなげている (3)
		育てている野菜をお絵描きする (1)		
		育てている野菜に関する絵本を置く (3)		
		食に関連した絵本を読む (3)		
		遊びを通して保育と食をつなげる (3)		
		子どもを理解している (27)	子どもとの関係づくり (2)	
			子どもへのかかわり方がわかる (3)	
			子どもと学ぶ (6)	
			子どもの気持ちがわかる (5)	
			子どもの好きなことがわかる (1)	
			子どもの性格がわかる (3)	
			子どもの顔を把握している (1)	
			子どもを観察している (1)	
			子どもの個別対応ができる (3)	
			子どもに必要な力がわかる (1)	
		子どもの生活リズムがわかる (1)		
		食育活動を通して (93)	野菜と関わる (9)	
			上のクラスへの憧れを育てる (7)	
			子どもの変化に気づく (12)	
			子どもの反応を把握している (6)	
			わかりやすい媒体をつくる (1)	
			継続して食育活動を行う (1)	
			三色群に分ける (1)	
			野菜の成長を見る (3)	
			食材を買いに行く (2)	
			子どもが数をわかるようにする (3)	
			食の変化に関する声かけをしている (6)	
			子どもへ教育している (8)	
			気づきを促す声かけをしている (5)	
			保育士による食育がある (4)	
			栄養士による食育がある (2)	
			魚と関わる (4)	
			世界の食文化を取り入れる (1)	
		調理保育を取り入れる (10)	調理保育を取り入れる (2)	
			カレーづくり (2)	
			クッキーづくり (2)	
			よもぎ団子 (2)	
			ホットケーキづくり (1)	
おにぎりづくり (1)				
食育活動の改善をしている (8)				
給食を通して (226)	子どもの食の現状把握している (7)			
	子どもと一緒に食べる (32)			
	保育者が食べるモデルになる (14)			
	子どもの変化に気づく (2)			
	食事での雰囲気づくり (3)			
	子どもの食べる姿を見守る (1)			
	子どもに合わせた配膳をしている (3)			
	声かけをしている (4)			
	友だちの重要性を理解している (8)			
	食事介助をしている (13)			
	食事の援助を工夫している (33)	食事の援助を工夫している (5)		
		動物の口に例える (1)		
		少しでの食べられるようにする (4)		
一口を小さくする (2)				
声かけをする (1)				
表情に気をつける (1)				
食具を子どもに渡す (3)				
食べられない子へ声かけをしている (10)				
根気よく関わっている (1)				
褒めている (5)				

表5 保育士が回答した「子どもの食を支える力」（続き）

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	小小カテゴリー	
保育実践 (577)	子どもとの関わり (385)	給食を通して (226)	給食に興味を持たせる (13)		
			子どもへ声かけをあえてしない (1)		
			主体的に食べるように促している (2)		
			順番に食べる決まりがある (1)		
			食事マナーを注意する (3)		
			子どもと給食の味を共感する (3)		
			無理に食べさせない (1)		
			食事中に会話する (6)		
			味を伝えている (3)		
			食べるスピードを理解している (1)		
			どうしたら食べるかを理解している (3)		
			表情を把握している (4)		
			反応を把握している (2)		
			食嗜好がわかる (12)		
			咀嚼できない子がわかる (3)		
			野菜嫌いの子がわかる (3)		
			食べる量を把握している (17)		
			食べる量に合わせた対応をしている (6)		
			食事づくり (5)		
			給食の改善をしている (5)		
	アレルギー・特別食をしている (16)	アレルギー食の対応している (13) 特別食の対応をしている (3)			
	保護者支援 (113)	保護者と関わる仕組みづくり (35)	家庭も巻き込んだ園での活動 (5)		
			地域と保護者をつなぐ (1)		
			園の方針説明をしている (6)		
			園で子どもの食べる姿を伝える (15)	連絡帳で伝える (1)	
			園での活動を掲示する (5)		
			お便りを出す (2)		
			給食を活用する (1)		
			家庭と食事の連携 (29)	保護者への食の想いがある (5)	
				子どもの家庭での食事把握している (15)	
				保護者の食事把握している (1)	
		食事づくりについて聞く (1)			
		食事の食べ方について聞く (1)			
		保護者と子どもの食の関係を理解している (1)			
		家庭での食事の課題を把握している (5)			
		保護者との関わり (49)	保護者を理解している (8)		
			保護者への声かけをしている (4)		
			保護者の変化に気づく (6)		
	保護者から話してくれる (5)				
	保護者の悩み・不安を聞く (6)				
	アドバイスをする (5)				
	継続したフォローをしている (1)				
	相談にのる (4)				
	保護者を育てる (1)				
	アレルギーの保護者と話す (3)				
	地域との関わり (29)	地域の特性を把握している (3)	つながりを持つ (8)		
			地域とのかかわりがある (3)		
収穫体験をさせてもらう (13)					
地域とのかかわり (26)		地域も巻き込んだ園での活動 (1)			
		地域の中の子育ての考えがある (1)			
		親子の食の関わりを把握している (2)			
保育と調理室をつなげる (22)	他者をつなげる (22)	他者をつなげる (23)	給食室と子どもをつなげる (14)		
			栄養士と子どもをつなげる (3)		
			保護者と栄養士をつなげる (5)		
保育に関する知識 (54)	保育に関する知識 (54)	子どもに関する理解 (18)	乳児期の大切さ理解している (3)		
			子どもの発達を理解している (12)		
			食育と発達段階を理解している (1)		
			子どもの認知を理解している (2)		
			食に関する知識がある (14)		
	食に関する知識 (36)	衛生面に対応している (1)			
		誤飲について理解している (1)			
		自然の神様を説明できる (1)			
		離乳食の形態を判断できる (13)			
		食に関連するものを理解している (6)			

表5 保育士が回答した「子どもの食を支える力」(続き)

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	小小カテゴリー
連携 (202)	栄養士 (167)	コミュニケーション(110)	コミュニケーションをとる(2)	
			普段から話す(6)	
			栄養士へ協働を声かけをする(5)	
			子どもの食について話し合う(47)	給食について話し合う(16)
				食育活動について話し合う(8)
				子ども主体に話す(1)
				会議で話し合う(7)
				課題解決をする(4)
				栄養士と食育を決める(4)
				一緒に行事を行う(2)
		食育準備をする(3)		
		レシピを聞く(2)		
		子どもの立場に立って意見を言う(7)		
		要望を言う(14)		
		提案する(5)		
		相談する(7)		
		子どもの様子を伝える(13)		
		給食の感想を伝える(3)		
		一緒に考える(1)		
	連携をとる(31)	連携をとっている(24)		
		委託と連携している(2)		
		子どもの食を記録(2)		
		検食をする(2)		
		栄養士への想いがある(1)		
	栄養士の仕事を理解している(5)	栄養士の仕事を理解している(5)		
	栄養士と共有している(12)	情報の共有(9)		
		想いの共有(3)		
	関係づくり(9)	信頼関係を築く(5)		
		高め合う(4)		
	職員 (19)	コミュニケーションをとる(14)	職員と話し合う(8)	
			一緒に給食を食べる(2)	
			職員に提案する(2)	
			職員同士で相談し合う(2)	
共有する(2)		食の大切さを共有する(2)		
連携をとる(3)	連携をとる(3)			
園長 (8)	コミュニケーションをとる(3)	園長に相談する(3)		
	連携をとる(5)	連携をとる(5)		
保育士同士 (8)	コミュニケーションをとる(4)	提案する(1)		
		話し合う(3)		
	共有する(3)	保育士同士で共有し合う(3)		
	連携をとる(1)	連携した食育をする(1)		
職員育成 (4)	後輩育成(2)	後輩を育成する(2)	後輩を育成する(2)	
	後輩への想い(2)	後輩への想いがある(2)	後輩への想いがある(2)	
個人の資質 (69)	知識 (28)	自身が学ぶ(28)	知識を高める(14)	
			先輩から学ぶ(7)	
			研修へ参加する(7)	
	スキル (11)	スキル (11)	食への興味関心を広げる(2)	
			食の大切さを伝える(1)	
			チャレンジする(1)	
			子どもから学ぶ(1)	
			保育スキルを持つ(3)	
			自分の得意分野を見つける(1)	
			専門職からの目線を持つ(2)	
	調べることができる(1)			
	態度 (30)	態度 (30)	食べるのが好き(1)	
			食に興味を持つ(5)	
			感謝の気持ちを持つ(1)	
			セルフコントロールができる(3)	
自身が楽しむ(5)				
望ましい食生活を送る(2)				
子どもと一緒に楽しむ(13)				

※全1,009件

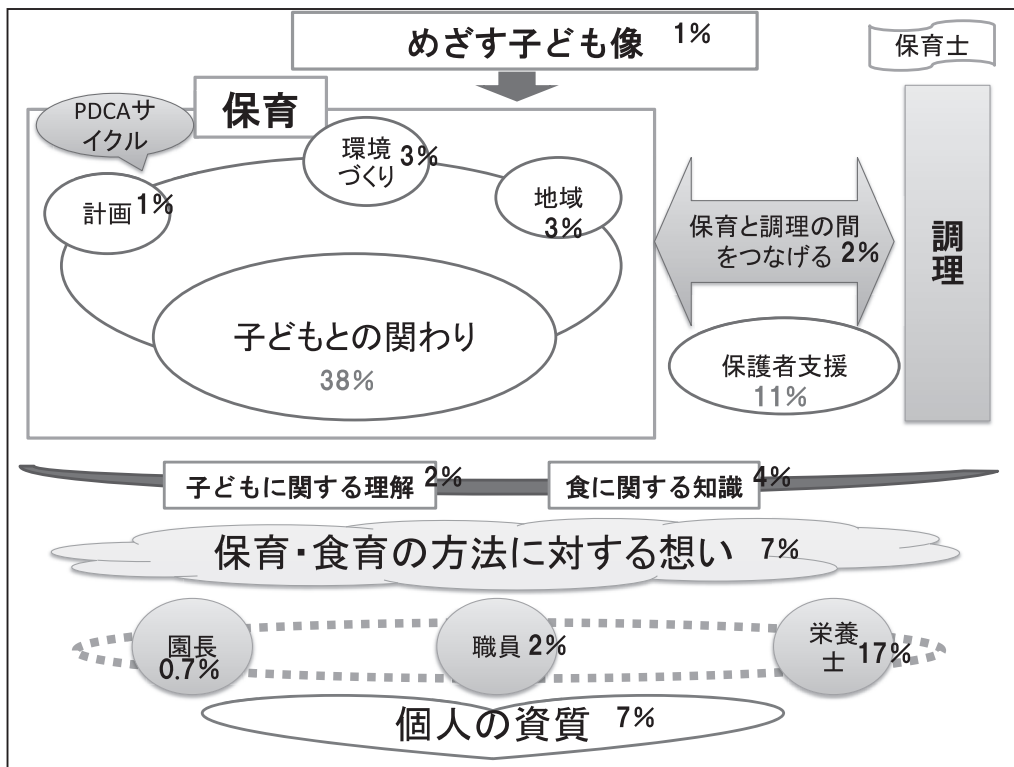


図3 保育士の「子どもの食を支える力」概念図  
 ※図中の数値は全体の項目数に対する各カテゴリーの項目数の割合を示す。

6) 栄養士の特徴 (表6、図4)

栄養士が回答した発言を類似性と相違性によって分類したカテゴリーを表6に示す。

栄養士の特徴は、《めざす子ども像》において子どもの食べる姿だけでなく子どもがつくる姿も抽出されたこと、保護者支援についても多く抽出されたこと、保育所保育指針や幼児教育の知識を高めたいという向上心をもつことであった。また、栄養士のみで《調理》に関する発言があった。

《めざす子ども像》では、「子どもたちへの食への想いがある」が抽出され、栄養士では子どもの『食事を選べる子ども』について一番多く抽出できた。また、栄養士のみで『食事づくりができる子ども』についての発言もあった。施設長や主任、保育士からは子どもの食べる姿だけであったが、栄養士からは子どものつくる姿もあげられた。

《保育実践》を構成する一つである【保護者支援】では、他の職種に比べ、園の活動を発信する力が多くあげられた。例えば、給食日よりレシピの配布、給食の展示などを行っていた。【保護者との関わり】では、保護者の悩みを把握し、それに応える力が求められていた。また、様々な場面で保護者と子どもの食について話ができる力も必要であることが示された。

さらに、栄養士のみで《保育に関する知識》をもつ必要性が示された。保育所保育指針や幼児教育に関する理解への発言がある一方で、幼児教育の知識や経験が足り

ないことを認識している発言もあった。このことから、栄養士は養成課程において保育に関する知識を習得してはこないため、実際の現場では、それらの知識がなくてはならないことが明らかとなった。

《調理》は、栄養士のみで抽出された特大カテゴリーであり、発言頻度が非常に高かった (123件、11.3%)。この力は、調理室内の【人間関係づくり】と【給食マネジメント】の2つに分類された、さらに【給食マネジメント】は「献立を作成する」と「食事づくり」に分けられた。「献立を作成する」では給食への想いや職員の意見を取り入れて献立を立てる力必要であることが明らかとなった。また、「食事づくり」では、園の方針だけでなく、栄養士自身が給食に想いを持っていることが明らかとなった。特に、調理を工夫していることや収穫したものを給食に取り入れる力があげられた。

図4では、栄養士が回答した「子どもの食を支える力」について概念図を表した。栄養士のめざす子ども像では、食事の選択ができる子どもや食事づくりができる子どもが抽出され、保育においてクッキングをしたり、食材を触らせたりと、めざす子ども像に向けた取り組みを行っていた。また、栄養士は保育のみならず、調理も抽出されたため、図に表した。調理では、他の職種とは異なり、保育・食育の方法に対しての想いのみならず、給食への想いも抽出できたため、調理室を支えている一つとして示した。

表6 栄養士が回答した「子どもの食を支える力」

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	小小カテゴリー
めざす子ども像 (12)	めざす子ども像 (12)	子どもたちの食への想いがある (12)	食事づくりができる子ども (1)	
			作る喜びが持てる子ども (1)	
			食事を楽しむ子ども (1)	
			食事を選択できる子ども (6)	
			食に興味を持つ子ども (1)	
			思いやりが持てる子ども (1)	
保育の方針・目標 (53)	保育の方針・目標 (53)	保育の目標 (8)	子どもを主体にした保育 (3)	
			卒園後の子どもたちを考える (5)	
		食育の方針がある (17)	食育活動への想いがある (8)	
			食育活動の方針がある (9)	
		給食の方針 (食べる場面) がある (12)	給食の方針 (食べる場面) 想いがある (12)	食事マナーも考える (2)
				楽しい食事する (10)
		給食の方針 (提供場面) がある (16)	給食の方針 (提供場面) がある (16)	テーブル配膳にしている (1)
				バイキングにしている (2)
				園の方針に沿って給食を提供する (9)
				和食中心にしている (2)
保育実践 (595)	保育の計画 (21)	食育計画を立てている (21)	食育計画を立てている (14)	
			年間計画を立てている (5)	
			月案を立てている (2)	
	保育の仕組みづくり (5)	食育活動の仕組みづくり (2)	表づくり (1)	
			記録をする (1)	
			ノートづくり (1)	
	給食の仕組みづくり (3)	チェックリストづくり (1)		
		仕組みづくり (1)		
	環境づくり (27)	野菜づくり (22)	野菜づくり (13)	
			プランターで育てている (4)	
			園庭で育てている (3)	
			畑で育てている (2)	
		お米づくり (5)		
	子どもとの関わり (425)	保育活動を通して (17)	保育活動を通して (2)	
			保育へ参加する (11)	
			保育を見に行く (2)	
			保育の内容を把握している (2)	
		子どもを理解している (11)	子ども一人一人がわかる (7)	
			子どもの特性がわかる (2)	
			子どもを観察している (2)	
		食育活動を通して (142)	食育活動をしている (20)	
			食育活動を改善している (4)	
			教具の設定ができる (1)	
			上のクラスへの憧れを育てる (1)	
			教材を使用して食育を行う (3)	
			食育活動を把握している (5)	
			子どもの反応を把握している (14)	
			年齢に合わせた食育をしている (6)	
			保育士と一緒に行事を行う (4)	
			保育士のサポートをする (7)	
	子どもに食材を触らせる (8)			
	子どもに給食の下処理手伝いをしてもらう (13)			
	調理保育をしている (25)	調理保育をしている (10)		
		収穫と調理保育のつながりがある (1)		
		子どもへの援助がわかる (2)		
		カレーづくり (5)		
クッキーづくり (2)				
ドレッシングづくり (2)				
サンドイッチづくり (1)				
梅干しづくり (2)				
クイズ形式で食育を行う (1)				
子どもたちの目の前で調理をする (11)				
食材の説明をする (2)				
食材分類をする (4)				
教材づくり (5)				
子どもの変化に気づく (7)				
活動から家庭へのつながりを把握している (1)				
子どもと一緒に食べる (18)				
雰囲気づくり (1)				
会話する (1)				
声かけをする (1)				

表6 栄養士が回答した「子どもの食を支える力」（続き）

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	小小カテゴリー			
保育実践 (595)	子どもとの関わり (425)	給食を通して (255)	食事の介助をしている (7)				
			友だちの重要性を理解している (1)				
			子どもと関わる (6)				
			子どもから話しかけてくれる (7)				
			子どもへ話しかける (7)				
			給食の感想を聞く (3)				
			給食の反応を把握している (4)				
			食べる量を把握している (12)				
			子どもに食について教える (10)	食事のマナー教える (3) 食具の使い方を教える (2) 食べ方を教える (5)			
			子どもたちの食の問題を解決することができる (5)				
			食べる時間を決める (1)				
			配膳の工夫をしている (8)				
			配膳の様子を把握している (4)				
			テーブルセッティングしている (1)				
			保育スキルを持っている (5)				
			子どもへの関わり方がわかる (3)				
			子どもの食の問題を把握している (8)				
			園の方針を理解している (2)				
			食事中的子どもを把握している (54)	食べる様子を見に行く (42) 食べ方を見る (3) 食事形態を把握している (9)			
			嫌いな食材がわかる (7)				
			好きな食材がわかる (10)				
			人気のメニューがわかる (24)				
			野菜嫌いな子がわかる (5)				
			子ども食事形態に合わせた給食を提供している (6)				
			口腔機能に合わせた給食を提供している (4)				
			子どもに合った食具を用意する (1)				
			子どもに合った食事量を提供する (4)				
			子どもに生活リズムに合った給食の時間がわかる (1)				
	個別対応ができる (3)						
	アレルギー・特別食対応 (21)	アレルギーフリー献立がたてられる (6) アレルギーの子どもと同じものが食べられるように工夫している (2) アレルギー対応ができる (11) 特別食対応ができる (2)					
	保護者支援 (99)	保護者と関わる仕組みづくり (29)	保護者と関わる仕組みづくり (29)	家庭も巻き込んだ園での活動 (1)			
				園の活動を発信する (21)	食事サンプルを見せる (1) パンフレットを配布する (1) 献立を配布する (2) 給食だよりを配布する (3) レシピを配布する (6) 展示や掲示をする (8)		
				試食を提供する (3)	だしを配布する (1) 人気のメニューを試食として出す (1) 離乳食を確認してもらう (2)		
				離乳食指導を行う (4)			
				家庭と食事の連携 (25)	家庭と食事の連携 (25)	保護者への想いがある (3)	
						家庭での食事を把握している (6)	
						子どもの姿から家庭での食事が把握できる (3)	
						連絡帳から把握する (2)	
		保護者から把握する (2)					
		保護者へ子どもの食を伝える (1)					
		保護者と子どもの関係を理解している (1)					
		兄弟と食べる関係がわかる (2)					
		保護者との関わり (45)	保護者との関わり (45)	食の面で保護者を育てる (2)			
				保護者の反応を把握している (3)			
				保護者との関わりがある (6)			
				保護者を理解している (9)			
				保護者の悩みを把握している (7)			
				保護者からの質問に答える (4)			
				保護者対応ができる (1)			
				保護者の要望を聞く (1)			
	保護者と話す (11)	子どもの食事について話す (7) 不安や悩みについて話す (1) 離乳食について話す (3)					
	アレルギーの保護者関わりを持つ (5)	アレルギーの保護者関わりを持つ (5)	給食の感想を聞く (1)				
			給食の説明をする (1) 給食について話す (3)				
	保護者へ声かけをしている (1)						

表6 栄養士が回答した「子どもの食を支える力」(続き)

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	小小カテゴリー		
保育実践(595)	地域との関わり(18)	地域の特性を把握している(4)	地域の特性を把握している(4)			
		地域とのかかわり(14)	つながりを大切にしたいを持っている(2)			
			地域とつながりを持っている(5)			
			収穫体験をさせてもらう(3)			
			こんにやく作りを見学させてもらう(1)			
区(行政)と連携をとる(3)						
保育と調理室をつなげる(24)	子どもとつながる(11)	子どもとつながる(11)	子どもから野菜を受け取る(10)			
	他者をつなげる(13)	他者をつなげる(13)	保育と時間が合わない(1)			
調理(123)	人間関係づくり(13)	人間関係づくり(13)	委託と保育をつなげる(8)			
		給食のマネジメントを行う(1)	保育と給食のつながりをつくる(5)			
	給食マネジメント(110)	献立を作成する(32)	給食のマネジメントを行う(1)	関係づくり(3)		
			献立への想いを持つ(9)	話し合う(8)		
			献立をたてている(10)	人材が不足している(2)		
			献立を工夫している(3)			
			子どもたちに給食を説明する(3)			
		献立に職員の意見を取り入れる(7)				
		食事づくり(77)	栄養士自身の給食の方針がある(2)	給食のマネジメントを行う(1)	給食のマネジメントを行う(1)	
			盛り付けをしている(2)		献立への想いを持つ(9)	
			レパートリーがある(1)		献立をたてている(10)	
			臨機応変に対応できる(2)		献立を工夫している(3)	
	離乳食が作れる(3)			子どもたちに給食を説明する(3)		
	保育に関する知識(60)	保育に関する知識(60)	子どもに関する理解(31)	子どもと食を理解している(6)		
子どもに関する理解(31)				子どもの身体の把握をしている(1)		
食に関する知識(22)			食に関する知識(7)	身体機能を理解している(25)	成長・発達を理解している(12)	
			コミュニケーションをとる(100)	保育所保育指針を理解している(4)	年齢による理解をしている(9)	
				幼児教育を理解している(2)	口腔機能がわかる(3)	
子どもを理解している(1)						
衛生管理ができる(11)						
連携(196)	保育士(156)	コミュニケーションをとる(100)	安全面の配慮ができる(3)			
			食具がわかる(3)			
			離乳食がわかる(5)			
			コミュニケーションをとる(2)			
			普段から話す(9)			
			保育士からの要望を聞く(13)			
			保育士から子どもの食について聞く(11)			
			声をかける(1)			
			連絡をとる(1)			
			連携をとる(12)			
		連携をとる(35)	保育士と話し合う(34)	保育士と話し合う(12)		
			給食について話し合う(13)			
			食育について話し合う(9)			
			保育士と食育内容を決める(3)			
保育士の仕事を理解している(4)	保育士と一緒に考える(3)					
	提案する(8)					
共有する(8)	想いを伝える(3)					
	相談する・される(9)					
関係づくり(9)	保育士への想いがある(3)					
	連携をとる(12)					
	給食のとき連携をとる(7)					
	食育活動のとき連携をとる(6)					
	保護者に関して連携をとる(2)					
	連携が難しいと感じている(8)					
	共有する(8)					
	気持を共有する(2)					
	情報を共有する(6)					
	信頼関係を築く(2)					
	高め合う(7)					



表6 栄養士が回答した「子どもの食を支える力」（続き）

特大カテゴリー	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	小小カテゴリー
連携 (196)	職員 (40)	コミュニケーションをとる (22)	職員と話し合う (10)	
			想いを伝える (8)	
		連携をとる (7)	子ども中心に話す (4)	
			連携をとる (7)	
		共有する (8)	価値観を共有する (1)	
			情報を共有する (1)	
			園の方針を共有する (3)	
		関係づくり (6)	一緒に給食を食べる (2)	
			同じ場所で仕事する (1)	
			職員同士関わりを持つ (3)	
職員育成 (4)	職員育成 (4)	後輩を育成する (4)	後輩を育成する (4)	
個人の資質 (26)	知識 (10)	自身が学ぶ (10)	研修への参加する (9)	
	スキル (13)	スキルアップする (1)	スキルアップする (1)	
		自分で考えてチャレンジ (行動) する (2)	自分で考えてチャレンジ (行動) する (2)	
		情報を収集する (4)	区の方針を把握している (3)	
		試行錯誤する (1)	情報を収集する (1)	
		栄養士の役目を認識している (5)	試行錯誤する (1)	
		栄養士の役目を認識している (5)	栄養士の役目を認識している (5)	
	態度 (3)	雰囲気づくり (1)	雰囲気づくり (1)	
		自身が楽しむ (1)	自身が楽しむ (1)	
		保育へ自信をつける (1)	保育へ自信をつける (1)	
保育へ自信をつける (1)		保育へ自信をつける (1)		

※全1,093件

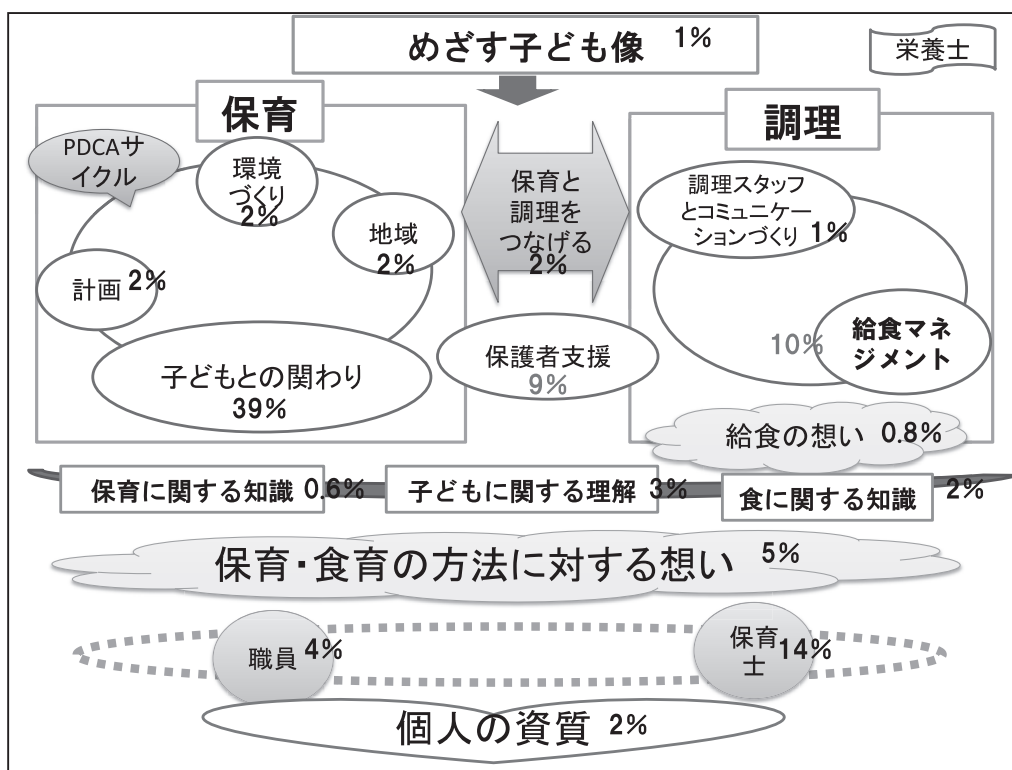


図4 栄養士の「子どもの食を支える力」概念図

※図中の数値は全体の項目数に対する各カテゴリーの項目数の割合を示す。

## 7) 施設長、主任、保育士、栄養士の類似性と相違性

保育所・認定こども園では、《保育の方針・目標》が立てられており、【保育の目標】、【食育の方針がある】、【給食の方針がある】の3つで構成されていた。【保育の目標】では、全職種で「卒園後の子どもたちを考える」ことがあげられ、保育者は子どもの育ちを見通し、目指す子ども像を掲げる力が必要であることが改めて明らかとなった。【食育の方針がある】と【給食の方針がある】では、それぞれの職種から想いや方針が抽出された。その中で、施設長と主任のみで、縦割り保育や異年齢保育についての発言もあり、「保育の流れをつくる」力が必要であることがわかった。

現場では、めざす子ども像に沿って《保育実践》が展開されており、全職種に共通してカテゴリー化されたものは、【保育の計画】、【保育の仕組みづくり】、【環境づくり】、【子どもとの関わり】、【保護者支援】、【地域との関わり】であった。また、主任と保育士、栄養士で《保育と調理室をつなげる》力が抽出された。以下に、それぞれのカテゴリーの内容を順に説明する。

【保育の計画】は、「保育計画を立てている」と【食育計画を立てている】に分類され、全職種ともに計画を立てる力の必要性が示された。【保育の仕組みづくり】は、「食育活動の仕組みづくり」と【給食の仕組みづくり】と【栄養士の保育への参加】の3つに分類された。施設長、主任、栄養士で「食育活動の仕組みづくり」と【給食の仕組みづくり】が抽出され、保育士では「食育活動の仕組みづくり」のみが抽出された。また、同じ大カテゴリーでも、職種によって内容が異なっており、例えば、施設長、主任の「食育活動の仕組みづくり」は、野菜づくりを行うために『園で畑を所有すること』や『収穫体験』をできるようにする力であり、栄養士はキャベツちぎりなどを子どもにやってもらう際に保育士へ向けた表を作成する『表づくり』をする力であった。このように、職種によってそれぞれに異なる仕組みづくりがあることがわかった。

施設長では、「給食の仕組みづくり」において、アレルギーに関するカテゴリーが抽出されたが、保育士、栄養士のアレルギーに関する発言は、【子どもとの関わり】に分類された。これは、施設長はアレルギーに関してなどの仕組みをつくり、保育士、栄養士はそれぞれ子どもを目の前にして直接除去食を提供しているからと考えられた。さらに、主任ではアレルギーに関して両方のカテゴリーに分類されたことから、前述の通り、主任は施設長と保育士の両方の力が必要であることが示された。

【環境づくり】では、施設長と主任は、特に【園庭づくり】や【園舎づくり】に関する発言が多く、保育士や栄養士ではプランターや畑で野菜をつくるなど実際に子どもが栽培活動を行う【野菜づくり】についての発言が多かった。ここからも、それぞれの職種で必要な力が異なることがわかった。

【子どもとの関わり】では、それぞれの職種で特徴がみられた。さらに、施設長では【食育活動】と【給食】に、主任は【給食】のみに分類された。保育士と栄養士では、「保育活動」、「子ども理解」、「食育活動」、「給食」に分類された。施設長の【食育活動】は『遊びを通して教育を行う』ことであり、「給食」は、職員や自身が子どもと一緒に給食を食べる発言があった。保育士と栄養士で抽出された【保育活動】は保育士では計画に沿った保育活動を展開する力が抽出され、栄養士では、保育に参加する力が抽出された。また、『子ども一人ひとりがわかる』ことや『子どもの気持ちがわかる』などの【子ども理解】をする力は、施設長と主任にはみられず、保育士と栄養士のみで抽出された。

【保護者支援】では、施設長が『保育参観』や『懇談会』などの【保護者と関わる仕組みづくり】に対して、主任はそれに加えて【家庭との食事の連携】をする力があがった。保育士と栄養士はこれらに加え、『保護者理解』や『保護者と話す』などの実際に【保護者との関わり】をもつ力が多くあがった。

【地域との関わり】では、全職種で【地域特性の把握】や【地域とのかかわり】の2つのカテゴリーに分類された。保育所それぞれに地域の特性があり、例えば、魚屋とのつながりを活かして、魚の解体ショーを食育活動で行ったり、八百屋とのつながりを生かして散歩のついでに買い物したりと、その地域に合った保育を展開していることも明らかとなった。

さらに、これら保育を支えるものとして、子どもの育ちを支える《保育に関する知識》があげられた。保育に関する知識は【子どもに関する知識】と【食に関する知識】、【保育に関する知識】で構成された。施設長と主任からは【食に関する知識】のみが抽出され、保育士と栄養士からは【子どもに関する理解】と【食に関する知識】の2つが抽出された。さらに、栄養士では、【保育に関する知識】が加わった。【食に関する知識】では、主に【衛生面】や【離乳食】など子どもの食に関して必要な知識があげられた。【子どもに関する理解】は主に子どもの成長・発達に関する理解をする力であった。

《保育と調理室をつなげる》では、主任と保育士、栄養士からは【他者をつなげる】力が抽出された。主任や保育士は主に収穫した野菜を給食室に持っていき、『給食室と子どもをつなげる』ことをしていた。一方、栄養士からは、保育士等がつけてくれた子どもから【野菜を受け取る】という【子どもとつながる】が抽出された。ある保育士からは、子どもと給食室をつなげることで、子どもの喫食量にも影響があることを認識している発言もみられた。このことから、保育士と食事作りを担う者が子どもを中心に交流をもつことで、子どもの豊かな食の経験が得られる可能性が示唆された。

栄養士の【他者をつなげる】は『委託と保育をつなげる』ことや『保育と給食につながり』をつくることであ

った。委託については全職種で発言があったが、それぞれの職種の発言から様々なカテゴリーに分類された。例えば、施設長では、保育の〔給食の仕組みづくり〕にあり委託と契約の仕方などが抽出された。保育士では、《連携》に分類された。

保育を展開するにあたって、《職員の育成》も抽出できた。施設長と主任からは【学ぶ機会を設ける】ことや【職員へのサポート】が抽出された。保育士と栄養士からは【後輩育成】のみであり、最も小さいカテゴリーであった。このことから、施設長や主任では職員の育成にも目を向け、職員の知識や技術の向上に関する仕組みづくりを行う力が必要であることが示された。

《連携》では、施設長と主任では、職員間で方針を共有する【職員間の共有】や職員間で話し合いをする【職員間のコミュニケーション】など共通のカテゴリーがあげられた。施設長から方針についても多く抽出されたが、実際に保育を展開しているのは保育士や栄養士などの職員であり、方針の共有をはかることは、施設長にとって重要な力である。特に、施設長と主任のみで【職員の仕組みづくり】が抽出され、話しやすくする〔雰囲気づくり〕や職員同士が話せるような〔場づくり〕を『職員間で話す仕組みづくり』や『保育士や栄養士が話す仕組みづくり』など、様々〔場づくり〕を展開していることが明らかとなった。施設長は話す内容や各職種への理解も踏まえて、場づくりを設ける力も必要であることが示された。保育士、栄養士は互いについての発言が多く、お互いに連携をとる力の重要性が改めてあげられた。一方で、栄養士からは保育士と【連携が難しい】との発言も多くみられ、保育士と栄養士の連携の課題も明らかとなった。

《個人の資質》では、栄養士、保育士は【知識】、【スキル】、【態度】が抽出され、施設長、主任はこれらに加え、【決断力】が抽出された。【決断力】とは、「うちは栄養士を通す時と通さない時とあるんです。即座に対応したい時は通しません。園長決断で…」という発言があった。子どもの学びを育てたいときや即座に対応したいときなどは、施設長や主任が自らの責任のもと対応していることが明らかとなった。【知識】は、全職種に共通で〔自身が学ぶ〕ことであり、主に『研修へ参加する』などであった。【態度】では、〔自身が楽しむ〕ことが共通してあげられた。施設長では、「園長が好きだから職員も好きで職員も好きだから子どもも好き」という自身の態度が職員や子どもへ伝播していることを把握している発言であった。保育士からは〔子どもと一緒に楽しむ〕という子どもの想いと共感して楽しんで活動する力がみられた。

## V. 考察

### 1) 各保育者の「子どもの食を支える力」

本研究では、施設長、主任、保育士、栄養士の各職種

の「子どもの食を支える力」の特徴に関する検討を行った。その結果、それぞれの職種によって、子どもの食の経験を豊かにするためにもつ力には特徴があることが示された。

まず、施設長では、仕組みづくりや施設づくりなどの発言が多く、リーダーシップに関する力が子どもの食を支える力のためにも必要であると認識されていた。効果的なリーダーシップの中でも「教育のリーダーシップ」は重要であるといわれている<sup>6)</sup>。「教育のリーダーシップ」とは、園における組織としての変化を導くための専門的スキルに焦点をあてた考え方である。施設長として、職員が必要としていることを把握し、園外で得られた情報を整理、選択し、職員の学びとなる研修を開くことが必要である。また、その職員の学びのみならず、職員の探求心を育てることも重要である。施設長からは保育士育成についての発言はみられたが、その他の職種の育成についての発言はみられなかった。栄養士も個人の資質に関する発言が、他の職種と比べ低かった。これらのことから、施設長は、保育士のみならず、食に関する内容を含めた園全体の職員の育成のための研修を実施する必要があると考える。

その他、施設長には、決断力が資質として必要であることが示された。この力には、衛生面をはじめ、様々な規制の中で栄養士とは異なる判断をしなければならないことや、食の分野であるということによって栄養士に責任を課すのではなく自身が責任を取る覚悟をもった決断力が含まれる。各保育場面における決断を行うためには、自身にしっかりと知識があることが重要である。施設長からは、他の職員に自身が考える保育方針、目標を伝え共有する力が抽出されたことからわかるように、施設長とその他の専門職種とがいかに互いの立場を尊重しながら、保育を作り上げることができるとの力が重要である。施設長には、子どもの育ちのために必要な決断が行え、そのための最終的な責任を取ることが求められる。そのような施設長とともに保育を創造したいと思う専門職種との関係性が重要であると推察された。

次に、主任は、施設長と同様に園内の仕組みづくり等の発言もみられた一方で、保育士や栄養士と同様に保育現場での発言もみられた。施設長の考える園の方針や想いを共有し、仕組みづくりを行い、保育士や栄養士に教育している姿もみられた。主任は、施設長と保育士の両面をそなえており、後輩育成を行っている役割を認識していることが特徴的であった。

施設長、主任は園を運営するリーダーとしての役割があることが関係図から明らかとなった。施設長では、職員の課題を把握し、職員育成や仕組みづくりに対応していること、主任では、職員を教育しているなど具体的な役割の必要性に気づく力が必要であることが示された。また、保育を展開するための保育に関する知識や、連携があることも示すことができた。施設長や主任では、連

携するための仕組みづくりを行っていることが特徴的であった。

保育士は子どもの関わりへの発言が多くあげられた。めざす子ども像では、子どもの食事を楽しむ姿への信念を形成していることが明らかとなった。伊藤<sup>7)</sup>は、保育士は意識的に子どもが楽しく、意欲的に食べられるよう、集団で食べる保育施設だからこその特性を活かした働きかけを行おうと考えていることを明らかとしている。本研究の結果からも、めざす子ども像として楽しく食べる子どもへの想いが抽出され、また、給食場面の子どもとの関わりで食事の雰囲気づくりにおいて「楽しんで食事ができる雰囲気をつくる」との発言から、同様な傾向が見られた。このように、子どもの食を直接援助する力と共に、食に関わる体験を通した主体的な学びができるように環境を構成する力、子ども同士の対話的な学びを引き出す力等、保育士に求められる力は多岐にわたることも明らかになった。

また、保育士からは保護者支援についても多く抽出できた。鶴ら<sup>8)</sup>は、保育所を利用する保護者がいかなる条件であれば保育士に自らの悩み相談するのかを明らかにしており、その一つに日常的な保護者へのアプローチをあげている。平成27年度乳幼児栄養調査<sup>9)</sup>によると約8割の保護者が子どもの食事について困りごとを抱えていることから、保護者の悩みや不安を聞き、継続的に子どもの食に関するフォローをする保護者支援の力も不可欠であることが明らかになった。

最後に、栄養士は調理室内についての発言が多くあり、これは他の職種にはみられなかった。調理室内の栄養士や調理師、パートなど様々な人物が調理に関わっており、栄養士にとって人間関係づくりも必要な力であると認識していた。調理室は基本的には栄養士が責任者として統括しており、調理師やパートなどの人々の想いや作業分担などを行わなければならない。また、市町村の栄養士と連携をすることもあげられ、特に一人職種である場合が多い栄養士は、衛生面や栄養面で市町村の栄養士と連携をとることも必要な能力として明らかになった。他にも、栄養士からは保育所保育指針や幼児教育への理解に関する発言があった一方で、幼児教育の知識や経験が足りないことを認識している発言もあった。栄養士は子ども理解を促すような学びが第一に基盤として大切だと認識する力も必要であると考えられる。

保育士、栄養士は現場での現状や食への想いが抽出された。保育士では、保育や子どもとの関わりについて多くの発言があった。栄養士では、子どものみならず調理についての発言も多かった。保育士、栄養士それぞれの専門性を抽出することができたと考えられる。互いの専門性を保育で展開し、連携している姿もみられた。しかし、栄養士からは保育士と「連携が難しいと感じている」という発言もあり、連携の課題もみられた。今後、保育士、栄養士の連携に関して検討していく必要性も示唆された。

連携の難しさには、例えば、栄養士が幼児教育について養成段階で学んでこないように、それぞれの職種の養成課程での学びの違いも関係すると考えられる。相互の職種理解を図った上で、職に就くことで、卒後すぐでも互いにスムーズに連携が図れるようになる可能性がある。このように、職に就いてからの研修内容と共に、その前段階にあたる養成段階での教育内容（卒前及びびりカレント教育の充実）も検討していく必要があるといえる。

さらに、全職種からアレルギーや委託に関する発言があった。厚生労働省が行った調査<sup>10)</sup>によると、保育所の食事の提供の形態は、自園調理が中心であるが、外部委託や外部搬入など多様化している。外部搬入の理由として、コスト削減や食材の仕入れ等の準備の軽減があげられる。効率化を考えるだけでなく、食事の形態が多様化しているからこそ、子どもにとってどのような食事が望ましいのか、職員全員で確認し、考え合うことが必要であると考えられる。そのためには、他園の給食に関する実践例の情報の収集や、園内の子どもの食を豊かにするために職員同士ができることを互いに伝えあい、意識を高めていくことが重要であると推察される。

本研究は、各保育者の子どもの食の経験を豊かにするために必要な力の概念を抽出し、整理を行った。さらに、本研究では、子どもの育ちを支える各組織とその組織の育ちの概念図を作成した（図5）。子どもの育ちには、様々なレベルの組織が関わり、それらはともに支え合っている。また、その組織に所属する親や保育者それぞれが育ちながら組織自身が育ち、子どもの育ちをより広く大きく支えていける、というものである。

平成26年、27年度の酒井ら<sup>11)12)</sup>の研究でも明らかになったように、家庭での食育を支える上で、保育所への期待も大きく、子育て支援の観点からその役割も大きい。もし親自身の育ちが遅くとも、その下で保育者たちが力を合わせて家庭を支えていければ、子どもの育ちは担保されるであろう。他の保育場面と比較すると、園内では保育士だけでなく栄養士や調理師等の食事提供に関わる人々が支えており、地域では農家や商店等の地域の食の生産・流通等に関わる人々が位置づいている点が特徴的である。

こうした人々が関わるからこそ、新保育所保育指針<sup>3)</sup>の第3章の2の「食育の推進」で強調されたように、子どもが食の文化を継承していくこと、食の循環・環境への意識が芽生えていくことができる。改めて、子どもと調理員等との関わりや、調理室など食に関わる保育環境に配慮すること、保護者や地域の関係機関等との日常的な連携を図り、必要な協力が得られるよう努めることといった「食育の環境の整備等」に関する観点の重要性を示すことができた。本研究では、各職種に必要な力に焦点をあてて、概念を抽出し整理を行い、それぞれ保育者としての育ちと組織の育ち、またそれぞれの助け合いの重要性を改めて提唱したい。

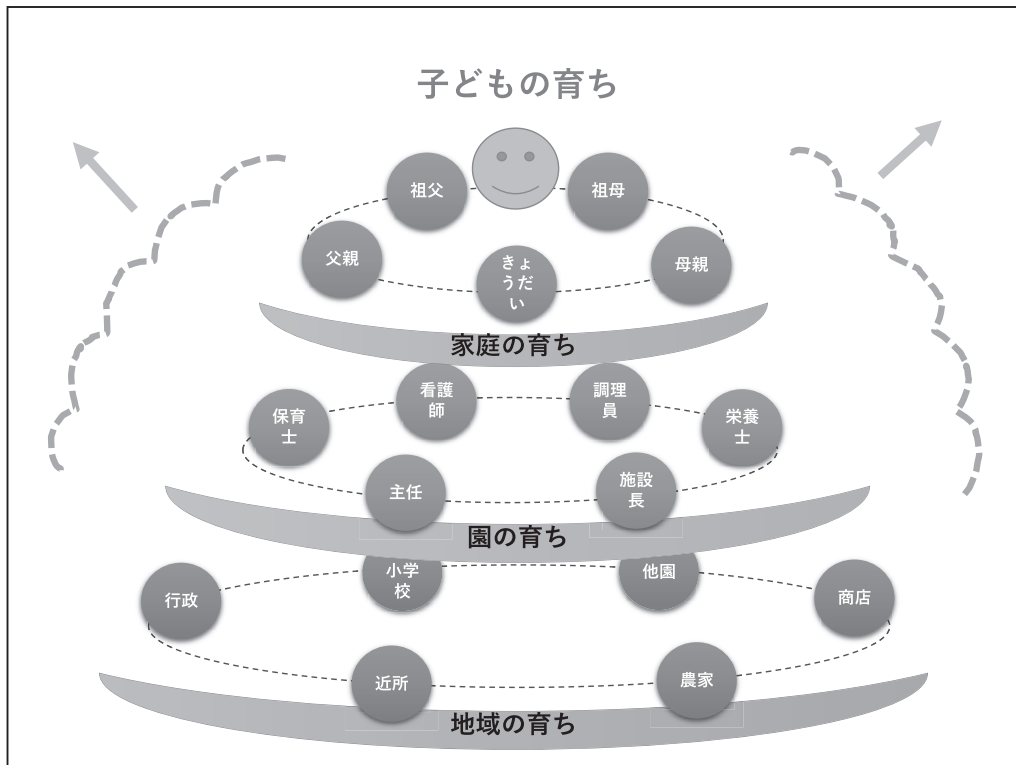


図5 「子どもの食を営む力の育ち」を支える各組織の育ち

## 2) それぞれの職種への研修提案

本研究をもとに、それぞれの職種の子どもの食を支える力のための研修内容の提案を試みる。まず、施設長は仕組みづくりや施設づくりなどの発言が多かったため、保育士のみならず、栄養士や調理員に対するリーダーシップに関する研修や園内研修の組み立て方を学ぶ研修が必要である。主任は、施設長のような仕組みづくりを学ぶ研修や日頃から行っている職員育成に向けた研修が必要であると考えられる。さらに、保育士、栄養士はそれぞれの専門性が抽出できたが、連携に関する課題もみられた。このことから、「子どもの食」をテーマに考え方の違いを発見し、互いの良いところを見つけ出す力も必要であると考えられる。専門性を維持向上すること、そして互いに理解し、子どもの食を共有できるような研修が必要であると考えられる。

また、全職種に共通して、子どもにとってどういう食事が必要であるのか、職員全員で確認し、子どもの食を考える場の提供の必要性も見いだせた。他園の給食に関する実践例の情報提供などの研修が、職員の意識向上につながると推察される。

本研究で提案した研修内容は、平成29年4月に厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長から通知された「保育士等キャリアアップ研修の実施について（雇児保発0401第1号）」<sup>13)</sup>に示された研修内容の一つである「食育・アレルギー」分野の内容に大きく関わる。当分野では、「食育に関する理解を深め、適切に食育計画の作成

と活用ができる力を養う」「他の保育士等に食育・アレルギー対応に関する適切な助言及び指導ができるよう、実践的な能力を身に付ける」ことがリーダー研修の「食育・アレルギー」分野のねらいに掲げられている。本研究により、リーダーがこうした力を培うためには、保育士として、栄養士・調理員として「子どもの食を支える力とは何か」を考え、「他の保育士等に適切な助言・援助ができるための実践的な能力」、さらに、多職種の協働を導くマネジメント、リーダーシップ、人材育成、働きやすい環境づくりを創り出すことが求められていることを実証することができた。

## 3) 本研究の限界点と今後の検討

研究の限界点として、グループのメンバーが必ずしも職種別に分かれていなかったことや職種によって経験年数に偏りがあったことなどがあげられる。いずれもグループ、そして対象者の構成メンバーの独自性を生かしたグループダイナミクスが生じており、そのために抽出できた発言も見られた。こうした限界があるものの、施設長、主任、保育士、栄養士それぞれの「子どもの食を支える力」の特徴を抽出し、それぞれの職種に対する研修提案につなげることができた。今後、この研究をもとに質問紙を開発し、量的調査につなげ、その結果から、保護者自身、また、それぞれの職種の保育者のセルフチェックリストの開発をしていきたい。

## VI. まとめ

本研究では、保育所や認定こども園において、保育者の「子どもの食を支える力」の特徴を検討した結果、施設長、主任、保育士、栄養士それぞれの類似性や相違性が抽出できた。施設長は、リーダーシップに関する研修や全職種に対する園内研修の組み立て方を学ぶ研修が必要である。主任は、施設長のような仕組みづくりを学ぶ研修や職員育成に向けた研修が必要であると考え。保育士、栄養士は、連携の面において「子どもの食」をテーマに考え方の違いを発見し、互いの良いところを見つけ出す研修や、専門性を維持向上すること、そして互いに理解し、子どもの食を共有できるような研修が必要であると考え。また、全職種に共通して、子どもの食を考える場の提供の必要性も見いだせた。他園の給食に関する実践例の情報提供などの研修が、職員の意識向上につながると推察される。

### 参考文献

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長：『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～』，雇児保発第0329001号，平成16年3月29日
- 2) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長，社会・援護局障害保健福祉部長通知：児童福祉施設における食事の提供に関する援助及び指導について，雇児発0331第1号，障発0331大字16号，平成27年3月31日
- 3) 厚生労働省：保育所保育指針（平成30年度～）
- 4) 安梅勅江：ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法 科学的根拠に基づく質的研究法の展開，医歯薬出版株式会社，24-65（2001）
- 5) 川喜田二郎：発想法 創造性開発のために，中央公論新社，66-114（1967）
- 6) 秋田喜代美，淀川裕美，佐川早季子，鈴木正敏：保育におけるリーダーシップ研究の展望，東京大学大学院教育学研究科紀要，第56巻，288-295（2016）
- 7) 伊藤優：保育所の給食場面における保育士の働きかけの特質，保育学研究，第51巻第2号，63-74（2013）
- 8) 鶴宏史，中谷奈津子，関川芳孝：保育所を利用する保護者が保育士に悩みを相談する条件 —保護者へのインタビューを通して—，教育学研究論集（12），31-38（2017）
- 9) 厚生労働省：平成27年度乳幼児栄養調査，第1部 乳幼児の栄養方法や食事に関する状況
- 10) 厚生労働省：保育所における食事の提供ガイドライン，平成24年3月
- 11) 酒井治子，曾退友美，岡林一枝，倉田新，汐見稔幸，林薫，久保麻季：食を通した子育て支援の観点を活かした保育所保育に関する研究～父親に焦点を当てた保育所が発信する食育プログラムの開発をめざして～，保育科学研究，第7巻，1-37，2016
- 12) 酒井治子，菊地恵子，岡林一枝，林薫，藤澤良知：食を通した子育て支援の観点を活かした保育所保育に関する研究～父親が発信者となる家庭での食育を焦点に～，保育科学研究，第6巻，22-53，2016
- 13) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長：保育士等キャリアアップ研修の実施について，雇児保発0401第1号，平成29年4月1日